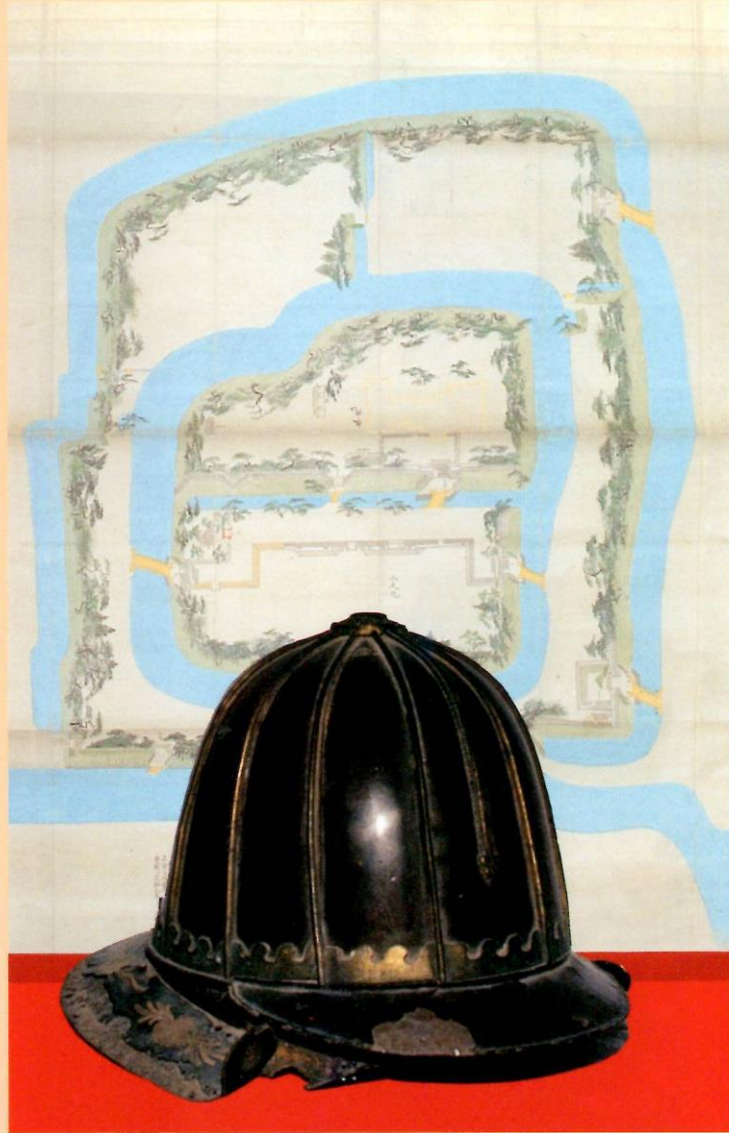


〔第66回企画展示〕

亀ヶ崎城資料展

2階・酒田の歴史と民俗資料



亀ヶ崎城絵図・十二間筋兜（志村伊豆守）

開催期間 1991年7月24日(水)～9月16日(月)

開館時間 9時～16時30分

休館日 10月31日(木)まで無休

入館料 大人100円 児童・生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL (0234)24-6544

《亀ヶ崎城図》

亀ヶ崎城鎮守八幡宮

亀ヶ崎城二の丸にあって城内の鎮守で、菅田別尊ほんだわかを祀る。創始ははっきりしないが、古来「太浄山東禪寺八幡宮」といい、享禄5年(1532)の鰐口銘のみにことに「東禪寺一王子」とみえ、往時太浄山東禪寺という寺が鶴渡川原付近にあった。因ってその地を東禪寺と称し、城名もこれに基づくものと思われる。東禪寺廃絶の後これが鎮守即ち一ノ王子と称する八幡宮を城内に遷し、その称号をつけたに違いない。天正16年(1588)本庄繁長在城の際に、帰依していた修験日光院賢清を越後の瀬波より招き城内に勧請した。慶長13年(1608)賢清が亡くなり、2代清養が成就院と改称し、同17年6月最上義光公より社領を給わっている。元和4年に成就院を三の丸城戸東北隅片町に移転、享保11年に御倉防火のため鶴渡川原に移転を命じられている。

当社は亀ヶ崎城鎮守として代々の城主に崇敬されてきた。



酒井忠義公書



亀ヶ崎八幡神社



亀ヶ崎城の由来

いにしえ酒田城といい、中頃、東禅寺城と呼ばれ、後に亀ヶ崎城といった。酒田城は、最上川と新井田川によって出来た扇状地の一部分で、中州にあったものと思われるが、天平勝宝年中(749～757)房崎元徒卿が築城したといわれ、寛治(1087)の頃佐藤氏が酒田城を領して、酒田二郎といったが、確たる史料は見つかっていない。

大泉の地頭職であった武藤氏は酒田の東禅寺城で砂越氏を牽制し、天正15年に東禅寺筑前守は東禅寺城にあって、最上義光の勢力を背景にして庄内三郡を支配した。天正16年に十五里ヶ原の戦いで東禅寺氏は敗れ、本庄軍と最上の東海林兄弟による飯盛山・東禅寺城合戦があり、慶長6年に最上川を挟んで最上義康と上杉の志田修理との酒田城合戦が行われた。その結果、最上義光の支配となり、長谷堂城主志村伊豆守が東禅寺三万石を給わった。

慶長8年(1603)3月に酒田湊に2メートル余の巨大な亀が上がり、義光公はその奇瑞を慶び「千秋万歳を祝え」とお触れをだし、人々は「竜宮の乙姫様のお使いがやってきた」とはしゃぎ亀を車に乗せて村々を回り、7日間祝宴を開いたという。以来、義光公は東禅寺城を亀ヶ崎城、大宝寺城を鶴ヶ岡城に改名、後になって中山を松山とし、その西の田尻を竹田と改めた。こうして鶴・亀・松・竹が揃ったといわれる。

最上家が改易になり、元和8年(1622)酒井忠勝公が庄内の領主になり、亀ヶ崎城は鶴ヶ岡城の枝城として城代が置かれた。



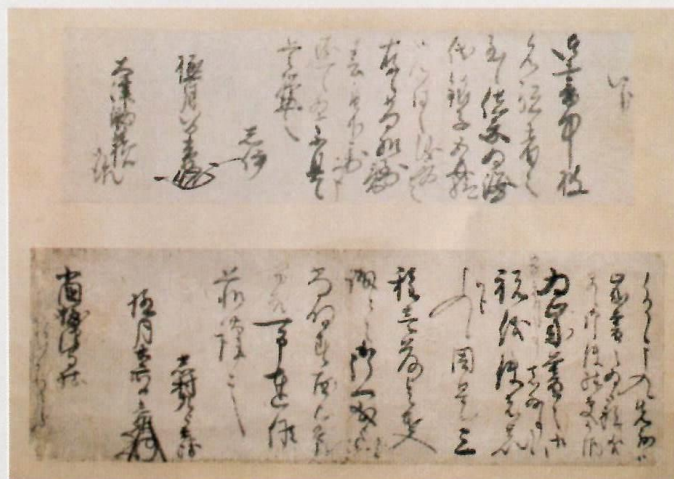
坂田浦眺望図



進藤但馬守甲冑



八幡神社の前だち猪



志村親子書状